

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標							
学校教育計画							
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)学習指導要領改訂を踏まえた共同研究の推進	専門教科の理解にとどまることがないように、校内研究会ではCSを提示し、他教科の教員でも視点を持てるような配慮を行なった。	CSは整理され、みやすくなったこともあり、考える視点にはなったと思う。教員が今までの研究会の様子よりは理解を示せていたのではないかと考える。	全職員が共通の土台に立てる手立てが十分ではない。定期的に研修会などを開いていく必要があるのかもしれない。	B	研修会がコロナ禍でできなかったとってはいるが、例年に比べて比較的できておられたように思う。	A	
(2)各教科・領域における評価(評価規準・評価基準)研究	研究部として各教科レベルまでは落とし込めていない。総合など柱になる部分に関しては、整理した	昨年度から総合のカリキュラムを再編し、作り直している。来年度である程度の形が整えられるのではないかと考える	研究部としてではなく各教科主任や教員に任せている部分が大きかった。ただ、そこも含めて研究部というのは、人数的にも難しいと思います。せめて各教科1人配置していかない限りできないと思います。	C	評価研究についてはあまりできていなかったのとは感じています。今後期待します。	B	

学校教育目標							
学校教育計画							
2. 授業力の向上							
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)国際バカロレア教育の充実及び研究	総合に関しては、IBと関連する部分を作り出し取り込めるような内容を設定した。	総合部分については、IBの要素を取り入れた内容で実施することはできた	研修会が校内・校外問わずにあまりできていないので正直進歩したかと言われるとわかりません。	C	IBの研修会等がコロナで全くといっていいほどなくなったと聞いています。どこまで進んでいるのかは、外部からはわかりませんが、コミュニティプロジェクトでのボランティアスピリットアワードの受賞は素晴らしいと思いました。	B	
(2)言語活動の充実、学校図書館・ICTの活用	今年度、ロイノートを活用しながらできる範囲の言語活動を行なった。それぞれの先生が活用できるように、4・5月に使い方の研修会を教務部と連携して行なった	一定の先生は使えるようになったと思う。そのおかげで子供たちも活用する機会が増えICTを効果的に活用しながら言語活動を行うことはできてきた	十分に使いきれていない部分は多いので来年度以降も教員に対する研修を行なっていく必要があると感じる	B	緊急事態宣言と臨時休校の中において、ICTを活用したオンライン授業を実施していただけたと思っています。ありがたいです。	A	

学校教育目標							
学校教育計画							
3. 安全・安心な学校づくり							
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)安全教育カリキュラムの確立	学校安全計画を年度当初に作成し、各教科において安全教育を実施するとともに、系統的な学習を行う。また、総合的な学習の時間においても安全教育について取り組む。	臨時休校による授業計画の変更が余儀なくされた状況でありながら、各教科において概ね計画していた安全教育の学習は行えた。総合的な学習においては、単発的な学習ではなく、探究のプロセスに則り、思考力の育成を図る取り組みが行われた。	各教科で行われる安全教育は定着はしつつも形骸化や意識の低下に対する懸念がある。職員の学校安全に対する共通理解と目標を共有する経営ができていないことが原因と考えられる。重点目標としての学校経営の進め方の改善が求められる。	A	安全カリキュラムが例年と同じような形でとどまっているような気がしています。しかし、安全に関する授業等は実施していたので、良かったと思います。	A	
(2)SPS校としての取組の充実と国内外への発信	学校安全計画の作成、学校安全の手引きの更新を行い、安全教育と安全管理を確実に実行する。先進的な学校安全の取り組みを行い、積極的に外部に発信を行う。	コロナ禍ではありながら、ほぼ例年通りの取り組みを行うことができた。また、職員の各種訓練は動画撮影を行い、職員の研修のためだけでなく外部に発信を意識した取り組みが行えた。今年度の状況でも、外部への実践発表は2回行うことができた。	学校安全の取り組みは年々活発化しているが、学校組織としての学校安全に対する意識と技量の低下を感じる。今年度、校務分掌の改定により、安全教育は学校安全主任が1人で進める形になっている。学校経営の進め方の改善が求められる。	A	学校安全の取り組みとして、防犯訓練等を実施されていました。来年度も本年度同様、取り組んでほしいと思います。	A	
(3)安全管理の見直し・充実	昨年度の訓練の振り返りや日頃の課題から、学校安全の手引きの更新を行い、安全管理の充実を図る。通常時の取り組みと緊急時の対応を確実に実行する。	例年の安全管理に加え、今年度は緊急時の対応として、感染防止の取り組みが必要となった。感染防止については、毎朝の手洗い指導と検温が通年で、年度当初は、昼と放課後の校内の消毒を行なった。その他、例年通り安全点検等を行なった。	戸締りの不備が増えていることから、職員の安全管理に対する意識の低下と、安全管理の体制の崩落が懸念される。また、感染防止対策も通年の取り組みとなり、登校指導も行っていない。組織的な運営の改善が求められる。	B	学校安全については、日常に実施しているのだけが安全管理ではなく、コロナ対策等もそれに含まれることを痛感させられる1年となりました。その中で、多忙な先生方が一生懸命に取り組んで下さったことには感謝しています。	B	

学校教育目標							
学校教育計画							
4. 適切な組織運営、開かれた学校づくり、保護者・地域との連携							
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)保護者・地域との連携	保護者の学校評価アンケートにおいて、授業参観や学校行事、PTA活動に参加しやすいと感じる学校運営を行う。(保護者・PTA活動への参加に関する項目において90%以上の値で達成できるようにする。)	コロナ禍において、なかなか学校へ来ていただき、授業参観等に参加して頂く機会がなかった。その中でも、日程や時間をずらして授業参観を実施したり、オンラインによるPTA活動を行ったりと、工夫をしながらPTA活動を実施することができたと思っている。	PTA活動がいつもと異なる方法で実施される中、対面で会議できない中でのPTAの方との意思疎通の難しさを痛感させられた1年であった。来年度は、もう少し、保護者の方とも連携をとれるように努力していきたい。	B	学校に不測の事態が起こると、どうしてもPTAは意見を言いたくなります。そのようなときに、PTAが連携をとり、保護者も学校に全面的に協力するといった立場をとるべきだと感じています。	B	
(2)責任ある校務分掌の遂行	運営委員会を中心として、各分掌の長が十分に意見を出し合い、意思疎通ができるような学校運営を行うとともに、IBの校務分掌と従来の校務分掌の整合性について検証・検討を行う。	運営委員会で、各分掌の長が意見を出す場があることができたのはよかったと言える。IBについては、コロナ禍ということもあり進捗状況があまりよくなく何とも言えないが、もう少し、IBについても運営委員会で検討を重ねることができればよかったのではと考える。	運営委員会において、十分に意見をだしあい、意思疎通ができたかは疑問である。会議の場であっても、声の大きいものの意見が通るようではおかし。そういう観点からも、会議性のあるものを検証していく必要があると考える。	B	IBについては、なかなか全員で検討することが難しいと聞いています。今後の学校の取り組みに期待しています。	B	
(3)開かれた学校づくりの推進	学習評価等の基準や進路情報、公文書等を適切に発信する。個に応じた進路指導を、家庭と連携しながら進めていく。PTA総会や、HP、ミマモルメ、学校説明会を通して、学校における取り組みの発信を積極的に行うとともに、わかりやすい発信を行う。	HPの刷新、ミマモルメの発信、ICTを用いた学校の取り組みの発信等、今年度は例年と異なった情報発信を行うことができた。学校説明会についてもオンラインとなったが、もう少し、オンラインを有効に用いた学校説明会にできるよう、来年度以降は検証を進めたいと思う。	オンラインを用いた発信はよかったが、誰もが気軽に簡単にその発信されたものを見ることができるよう、発信元である学校も工夫をしなければならぬと思う。そのためには、受け手のことも考え、学校がどのように情報を発信するかについて、考えていくべきであると言える。	B	オンラインで、色々なものを発信して頂いていました。それについては、本当に良かったと思う。今後も、オンラインによる発信は継続して頂きたいです。	B	
(4)学校評価の充実	昨年度の学校評価の結果を念頭に置きながら、会議等で提案や検討を行い、評価項目の検討を行う。	学校評価の項目を大幅に変更したこともあり、経年評価を実施することができなかった。ただ、その年その年に見合った学校評価の在り方も大切になってくると思われ。来年度以降の学校評価の項目についても、検証していきたい。	学校評価の内容について、その結果を十分に検証し、次年度に活かすことを行うべきである。そのために、学校評価の在り方を考える必要があると感じた。	B	学校評価の項目等は適切であると思っています。例年同じ評価項目ではやはりおかしと言えるので、そういう意味では、学校の実態にあったものになっていたと思います。	B	

6 附属池田中学校 令和2年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果(その2)

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。						
学校教育計画	5. 自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
自主・自律の精神の涵養と様々な他者との人間関係を深める取組の推進	IB教育を取り入れた取組みの充実。特にコミュニティプロジェクトの充実。	3年生で集大成とされるIBのコミュニティプロジェクトにおいては、生徒が自ら課題を発見し、それに向かって他者との人間関係を深めながら、取り組んでいけたと思う。また、LGBTQの観点から講師を招聘し、講演をきくなど他者を認め、人間関係を深める取り組みを推進できたと思	他者との人間関係を深めるという観点から、授業等で自らが考えられるカリキュラムを構築する必要があると考える。	B	コミュニティプロジェクト等で、人間関係を深め自主自立の精神で物事を進めていくなど、難しいことに子どもたちが取り組んでいると思います。これからもこのまま継続していってください。	B	

学校教育目標	知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。						
学校教育計画	6. 生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導、規範意識の向上と生活規律、学習規律の徹底、いじめや不登校への対応						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
生徒との信頼関係を基にした内面に迫る生徒指導、規範意識の向上と生活規律、学習規律の徹底、いじめや不登校への対応	QU・いじめアンケートの実施 生徒会活動・月1回の生徒集会の実施 部活動における指導 体育大会・文化祭などの行事に関する調整	感染拡大を防ぐ取り組みの中で、生徒と接する時間は限られ、信頼関係を築くには難しい状況ではあったが、QU・いじめアンケートの実施、生徒会活動の取り組み、行事における繋がりなどを大切にして、指導を行なった。限られた状況の中ではあるが、一定の成果はあった。	不登校の指導や支援に関して、改善する必要がある。担任の支援ばかりではなく学校としての体制を整える必要がある。また引き続き学習面の不安や家庭でのストレスを解消しつつ教師との関係性を築けるように担任や学年の教師、保健室などと連携しながら学校生活の支援を行うことが重要である。	C	QUやいじめアンケートを実施し、それを使用した指導を行ったと聞いています。ただ、外部機関やカウンセラーの方とのつながりが薄いような気がします。今後は、もう少し、それらの方と連携を取っていただけたらと思います。	B	

学校教育目標	知識と感情と意志をバランスよく調和させることによって、自分自身で考え、価値判断でき、責任ある行動がとれる人間の育成をめざす。						
学校教育計画	7. 教育実習の充実						
本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
教育実習の充実	教員になることとはどのようなことなのかという本質的なことを学ばせる。	ただ単に単位を取得するだけの教育実習ではなく、現場に出たときにどのように動くことができるのかを学ばせることができた。	教育実習の根本とは何かを学ばせることができたが、授業のテクニックを学ばせるのではなく、生徒に関わるとはどのようなことなのかを学生にきっちりと示すため、教員も自覚を持ち、取り組んでいく必要があると感じている。	B			